

連携ニュース

てんじん

独立行政法人

国立病院機構 甲府病院

(〒400-8585 甲府市東町1-1-1)

発行責任者

院長 長沼博文

2006年3月1日発行

第3号

<http://www.hoso.go.jp/kofu/>

医療連携室の活動と今後

医療連携室長 渡邊 吉康

(内科系診療部長)

今日、多様化し高齢化も進む現代の医療現場では、地域の皆様にとって利便のよい医療を提供するために診療所、病院、保健施設などの各医療機関の緊密で円滑な連携が求められてきております。

そのような観点から、当院では平成十七年四月より、それぞれの患者さまに最適な医療の提供を目指して、地域の医療機関との連携を緊密で円滑なものにしていくことを目的に、専任職員を配置して地域医療連携室を設立し、活動を開始いたしました。

現在、医療連携室の業務は、開業の先生がたや他の医療機関、老

人福祉施設などからの紹介患者さまの診療情報提供書(紹介状)の受付と管理、診療後の診療情報提供(返事)や逆紹介などの連携を中心に行っています。また現在は放射線科が主ですが、他の診療所や医療施設からのMRIやCTなど当院の診断機器を利用した検査のご依頼のファックス、紹介状の受付、管理、検査結果の返事等の管理や郵送などを行っております。

最近の病院での外来診療では、受診される患者さまが多いために待ち時間の長さが大きな問題となっており、患者さまの大きな負担

になっております。このためご紹介いただいた患者さまにも予約がなければ、お待ちいただく場合も多くなってきました。通院中の予約患者さまでも、予約外の患者さまの診療が加わってくるため、本意ではありませんが、お待ちいただく時間が長くなってきている現状です。

また入院患者さまの場合にも、病状が安定し、固定期に入ってもなかなか長期療養型病院やリハビリテーション病院への転院ができない場合が多く、入院が長期化してベッドが空かないため、他の急性期疾患の患者様の入院が困難になることも起こっております。

医療連携とは、診療所や病院などの医療機関が各々の機軸特性を生かして連携し、効率よく円滑に紹介を行って、患者様ひとりひとりのニーズに合致した質の高い医療サービスを提供するための大切なシステムです。しかしながら現時点では必ずしも効率よく適切に運用がなされていないのが現状です。

今後、医療連携室では、紹介患者さまの待ち時間の短縮を実現するため、現在はまだ部分的にしか

行われていませんが、ファックスにて事前に受診予約と患者さまの登録、診療録(カルテ)の作成を行う紹介患者事前予約システムの効果的な運用。ご紹介いただいた診療所や病院への逆紹介や診療情報の提供(ご報告)、さらなる高度医療施設や専門診療科のある病院へのご紹介、病状が安定し慢性期にはいった患者様の長期療養型病院やリハビリテーション病院への最良のタイミングでの転院や老人保健施設へのご紹介など、他の医療施設との連携を緊密にして効率よく行っていきたいと考えております。お気付きの点、ご意見などがございましたら、遠慮なくお申し出いただき、よりよい医療連携が構築できます。よう何卒宜しくお願い申し上げます。



甲斐駒ヶ岳からの日の出(魚)



独立行政法人国立病院機構とは？

事務部長 魚住 三郎

国立病院機構は、旧来の国立病院・国立療養所の独立行政法人化により平成十六年四月にナショナルセンター（国立がんセンター等六施設）及びハンセン療養所を除き独立行政法人に移行し、現在全国に一四九の病院があります。

機構全体の理念は「私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のためにたゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに患者の目線に立って懇切丁寧な医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます」です。

国立病院機構は、平成十六年度から五年間の数値目標を掲げた中期計画を策定し、外部機関の定期的な業績評価を

受けています。また、国の会計原則から企業会計原則に変わり、業績に関する事後評価が徹底される一方で、組織体制や財務運営の自主性、裁量性が拡大し、より柔軟な病院運営を行なうことが可能となりました。

また、臨床研究・教育研修・情報発信については、全国の機構病院がナショナルセンターを含めて、十九の政策医療分野別に政策医療ネットワークを構築しています。（がん、循環器、精神疾患、神経・筋疾患、成育医療、腎疾患、重症心身障害、骨・運動器疾患、呼吸器疾患、免疫異常、内分泌・代謝疾患、感覚器疾患、血液・造血器疾患、肝疾患、エイズ、長寿医療、災害医療、国際医

療協力、国際的感染症の十九分野）例えば、臨床研究事業としては、ネットワークを活用したEBMのためのエビデンスの形成、質の高い治療の実施、高度先端医療技術の開発や臨床導入の推進などです。ちなみに当院は、成育医療、重症心身障害、呼吸器疾患の政策医療ネットワークに所属しています。

当院は、当院の理念である「患者さまの目線に立ち、優しさと思いやりをもって、病める人々が心を癒し、病を回復し、健康を維持されるよう努めます。」の姿勢をモットーに地域の皆さまにより信頼される病院を目指して職員一同努力して参ります。

であらわし、柔軟な意識改革を示す毛筆で描き、Hospitalityを意味するHospitalityの頭文字である「H」であらわし、健全な土台として描き、「翼と組み合わせてあります。

甲府病院ロゴマーク



紺で甲府病院の頭文字「K」を描き、地域の医療機関としての信頼感、

国立病院機構ロゴマーク



国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上を、飛翔する「翼」

安心感のビジュアル化で、地域との絆を表現。角度のある水色の円は動きを表し新しい病院が動き始め理念や実践が地域に広がり浸透していく姿を表現。円の中の5つの楕円は胎児から老人までをシンボライズ化したもので当院の政策医療の柱である成育を表現しています。また、宇宙を形成する「地・水・火・風・空」の象徴です。



診療科案内

呼吸器科

呼吸器科医長 高崎 仁

当院の呼吸器科では、気管支喘息、肺炎、肺癌、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支拡張症、結核、間質性肺炎、肺線維症、慢性呼吸不全・在宅酸素療法、睡眠時無呼吸症候群など、幅広く呼吸器疾患の診療にあたっています。患者様とご家族の方々の立場を尊重し、適切な医療をご提供できるよう、常に努力し実践するよう心がけております。咳や痰、息切れ、タバコ、アスベストのことなど、気になることがございましたら、お気軽に受診してください。以下に、主な呼吸器疾患の説明とご案内を掲載いたします。

気管支喘息

意外と大人になってから発症することが多い病気です。典型的な症状は、風邪をひいたときなどに、深夜から明け方に息を吐くときにゼーゼー・ヒューヒューと音がして横になるのが苦しく、昼間は案外楽になります。咳だけのこと

もあります（咳・喘息など）。受診時に症状のないときは、問診が大切で除外診断は難しいものです。発作は一時的であっても、実は空気の通り道で慢性的に炎症が起きているため、抗炎症薬による日々の予防が大変重要です。さらに喘息を慢性化させないためにも、早期診断と、抗炎症作用のある吸入ステロイドを主体とした早期集中治療をこころがけています。

肺癌

日本人の死因の第一位は悪性腫瘍（いわゆるがん）で、なかでも男性の場合肺癌もつとも多く、さらに増加する傾向にあります。原因として第一に挙げられるのが喫煙ですが、まったくタバコを吸ったことのない方でもしばしば見受けられます。こわい病気ですが、もっとも有効な治療は、とにかく早く見つけ出して早期治療に入ること（早期発見・

咳や痰などの症状があれば早めに受診することもさることながら、症状のないうちから早期に見つかる可能性のある健康診断がとて大切で、治療法は、外科療法（手術）、放射線療法、化学療法（抗がん剤）などの単独もしくは併用となります。

慢性閉塞性肺疾患（COPD）

肺癌と双璧をなすいわゆるタバコ病で、原因の実に9割は喫煙と関連すると考えられています。喘息と症状は似ていますが、日内変動に乏しく体を動かすと常に息苦しいのが特徴です。第一の治療は禁煙です。第二は、薬物療法です。第三は在宅酸素療法と呼吸リハビリテーションです。最後に、急性増悪を予防する目的で、インフルエンザや肺炎球菌のワクチンの接種をお勧めいたします。

結核

結核は世界規模の感染症で、日本は他の先進国より有病率が高い現状ですが、幸い山梨県は国内でも有病率の少ない県のひとつです。当院は五十床の結核病床を有し、県内の結核診療の中心的役割を担っております。内臓の病気の多くは、眼に

みえないものなのでなかなか気付きにくいものです。ことに結核は、一般の肺炎とは異なり、結核菌に感染した後、何十年もたつてから発病することが多いのです。なんと、咳が続く、痰が増えた、熱っぽい、やせた、などは発病の重要なサインです。自覚症状がなくても健康診断による早期発見は重要で、治療（ほとんどのが内服薬です）によりたいいていは治る病気です。

呼吸器系疾患の主な症状は、咳、痰（ときに血痰）、呼吸困難、発熱、胸痛などで、程度が軽ければ、「ちょっと風邪でもひいたかな？」と案内見過ごされがちなものです。確かに、たいいていの場合には自然に治ってしまふものですが、このようなくありふれた症状が、時に重大な疾患のサインである可能性がります。たった一枚のレントゲン写真がその後の人生を大きく左右することすらありますので、「なんとなく気になる」というご自身の体の違和感を大切にして、症状が続く場合は早めにご相談ください。誠心誠意をもつて診療にあたらせていただきます。



診療科案内

放射線科のご紹介

診療放射線技師長 古屋 栄一

当放射線科のスタッフは、診療放射線技師六名、受付事務員一名で日々の業務をおこなっております。

放射線機器はフルデジタル化され、一般撮影装置三台・透視撮影装置・CT撮影装置・静音化機構のMRI撮影装置・乳房撮影装置・血管撮影装置・核医学検査装置・骨塩定量測定装置等各一台、外科用イメージ二台・移動型撮影装置五台はNICU室・手術室・重症病棟・感染症棟・一般と感染予防等考慮して運用しております。

今回、特におすすめさせていただく装置は三月中旬より稼働予定の、十六列マルチスライスCT撮影装置です。当院の従来の装置と比較しますと、頭部撮影では1/4時間、胸部撮影では全肺を一呼吸停止で十五秒、腹部撮影では一呼吸停止・二十秒を十一秒等の短時間で撮影可能の他、アキシナル画像ばかりでなく、サジタル画像・

コロナル画像等も容易に描出でき、診断能の高い画像が提供できます。

また患者様の負担が軽減でき特に高齢者・小児等にひじょうにやさしい装置です。

乳房撮影はマンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定・評価A・技師の技術指導のもと撮影しております。

核医学検査は「放射性医薬品」を静脈から注射するほかカプセル等を飲んでいただき、心臓や脳、肺臓や甲状腺その他の病気の診断に欠かせない検査です。患者様にとって大変苦痛の少ない検査法です。

今年、一月からは人間ドックの中での肺ドック（CT検査・オブション）検査はCT装置が更新され、紹介したように短時間で検査が受けられます。

また、MRI簡易脳ドックは長沼院長（脳神経外科医）の診察日（火・金曜日）に合わせ午前中の

検査（約十五分の時間）・診察とっております。このMRI装置は検査時の騒音が極めて少ないので比較的、楽に検査が受けられます。

今迄二・三の業務内容をお話させていただきましたが、政策医療を担う病院であるため一〇〇〇g未満の超未熟児から高齢者・重度心身障害者・結核患者様と対象患者様は幅広く、技師の対応も苦慮するところが多いのですが看護スタッフ等の協力を得て、撮影技術・装置を駆使し患者様に安全で安楽に尚かつ、診断価値の高い画像を医師に提供出来るよう日々努力しております。四日に一度の輪番制で救急患者様の対応を図っております。

これからも患者様の満足が得られるよう、スタッフが一丸となり更に頑張ります。



紹介したCT装置の写真

今月の外来診療担当表はお休みさせて頂きます。

編集後記

本年は、医療機関関係者にとって頭の痛い二年に、一度の診療報酬改定のある年です。

新聞に依れば、診療報酬、薬価基準を併せて△3.16%と過去最大の下げ幅と云うことです。

この号が発刊される頃には、細部も大体決まり関係者の皆様におかれでは、伝票の見直しから始まり、新基準の取得準備等多忙な日々を送られていることでしょう。

今後も、医療費抑制という波の中、各医療機関にとっては更に厳しい事態と向きあわねばならないことが予想されますが、地域の医療機関様と共に発展して行けるよう、当連携室も微力ながらお手伝いが出来れば幸いです。

医療連携室直通電話

TEL 055-240-6223
FAX 055-240-6225